



湘南里川づくりを 推進するためのビジョン

平成23年5月

湘南里川づくりみんなの会

【湘南里川づくりの目的とめざす方向】

金目川は、丹沢大山山塊の南麓を源流とし、水無川、葛葉川、鈴川、渋田川など平塚市、秦野市、伊勢原市域を流れる二級河川や中小の河川、水路などと合流して相模湾に注ぐ、流域面積が184.17km²の湘南地域第2の河川です。

金目川本流やこれに合流する二級河川、中小の河川、水路などを総称して金目川水系と呼び、上流部は秦野市の水源として利用され、中下流部では豊かな水田地帯を潤すとともに、くらしに密着した「ふるさとの川」として親しまれていますが、その流域は、都市化が進行する中で、流域の豊かな自然や地域文化も徐々に失われつつあります。

この豊かな自然や地域文化を再生し、地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、自然と調和し共存する資源循環型社会づくりに向けた、山、川、海での連携した活動が求められています。

こうした課題への対応方策のひとつとして、県民と行政が協働し、地域住民等が主体的に「湘南里川見守り隊」として関わっていく「湘南里川づくり」を提唱いたしました。

この湘南里川づくりは、一般県民や「湘南里川見守り隊」の方々、教育関係機関、企業、行政等が共通の方向性に賛同してそれぞれの活動に取り組み、相互に活動を尊重しながら連携・協力することによって、川を通して人と人との絆を深め、川から学び、川からの恩恵を受けながら地域を育むことを目的としています。

本ビジョンは、その目的を達成するにあたって共有しておくべき基本的な考え方や方向性を、地域の特性を踏まえた流域の「理想像」として提示するものです。このビジョンは、固定したものではなく、里川づくりを推進する組織により、川を取り巻く環境等の変化に応じて見直しを積み重ね、湘南里川づくりが将来に渡ってよりよいものを目指します。

<湘南里川づくりのめざす方向（キーワード）>

- ①「世代を超えて川を身近に」・・・（子どもから大人まで環になって川を身近にしよう）
- ②「川が繋ぐ人のつながり」・・・（川から笑顔とやさしさと人のつながりを広げよう）
- ③「川が育む地域再生」・・・（川とともに地域再生を目指そう）

【湘南里川づくりを推進するための基本的な考え方】

(1) 川辺の自然を守ろう

自然環境のあるがままの姿を尊重して保全することを基本として、大切に守りながら次世代を担う子どもたちに引き継いでいくことを目指します。

(2) 川と親しもう

川の中に生息する水生生物の観察など、積極的に水と親しむ機会をつくることを通して、川が育む生命の大切さを学び、「川が繋ぐ人とのつながり」や子どもたちの心の原風景づくりに繋がります。

(3) 川をよく知ろう

かつての「暴れ川」金目川本流に対する先人たちの労苦とともに、川の怖さ、水の怖さを知り、天候や時期を見極め、安全を確保する術を学ぶことを伝えていきます。

(4) 川を日々の生活と身近なものにしよう

身近な水辺を美しい景観と良好な自然環境として維持し、散歩やジョギングなどを通して、心と体が浄化され人々が憩える場所となるよう、地域による美化清掃活動に心がけるなど生活と身近な川辺空間にします。

(5) 川と農業（産業）との関わりを学ぼう

広大な田園風景を貴重な地域の財産として保ちながら、農業を営む方々と協調して、川の恵みを分かち合い、体験による学びを通して相互の理解と協力関係を深めていきます。

(6) 歴史と文化を知ろう

金目川水系にまつわる先人たちの積み重ねた営みや、流域に存在する貴重な歴史・文化資源を知ることを通じて、流域の魅力を再発見しながら川と地域への愛護心を育みます。

(7) 湧水域を大切にしよう

金目川水系の特徴でもある地下水の窓である湧水スポットを活かしながら、地域に親しまれ、愛される地域づくりを目指します。

(8) その他

川をこれ以上汚さないために、身近にできる様々な活動を広げるとともに、清流の良さなど自然を学ぶ機会を増やします。

【湘南里川づくりに向けた地域ごとの理想像】

湘南里川づくりを推進するにあたり、金目川水系の流域全体を地域の特性に応じて6つのエリアに区分けし、それぞれのエリアごとに先述の「湘南里川づくりを推進するための基本的な考え方」の(1)～(8)のうち、特に特徴的な項目を記載するとともに、中長期的な視点に立ってそのエリアの目指す姿を「理想像」として提示しています。

金目川水系の流域の特徴と6つのエリア区分

○ 金目川水系の流域は、都市化の進展、生産活動の拡大の波にもかかわらず、今なお豊かな清流と自然環境を保持し、上流部は歴史の面影と自然を有している丹沢山系が広がり、河川を中心に中流部に広がる水田とともに、丹沢の遠景と合わせて郷土色豊かな景観を呈しています。流域は、大きく金目川、鈴川、渋田川の3つに分けられ、秦野盆地で水無川・葛葉川と合流し南東方向に流れ、平塚市内では北西部から中央部を通り、相模湾に注ぎます。こうした自然環境と景観など地域の特性を踏まえ、金目川水系の流域を次の6つのエリアに区分して、地域の理想像を描くこととしました。

1. 水源流域エリア

最上流部の水源林を中心とした金目川の水源地である春嶽山、丹沢大山山塊の南麓から秦野市蓑毛周辺

2. 市街化エリア(秦野市街地周辺)

ナショナル・トラストによる保存緑地に覆われた葛葉川及び水無川沿いに創出された親水性のある水辺環境のみずなし川緑地、弘法の清水などの湧水群、田原ふるさと公園を含む秦野盆地に位置する秦野市街地周辺

3. 市街化エリア(大根・鶴巻地区)

鶴巻あじさい散歩道に象徴されるおおね公園周辺の憩いの空間や県の天然記念物に指定されている鶴巻の大ケヤキや社寺林などの良好な緑、鶴巻舞台地区の水田地帯などを包含する地域

4. 市街化エリア(伊勢原市街)

伊勢原市西富岡洗水の日向扇状地付近を水源とする渋田川と大田地区の芝桜、あやめの里周辺、大山南東斜面を水源とする鈴川と、扇端部に多くの湧水がみられる上粕屋扇状地、板戸川の流域周辺

5. 市街化エリア(平塚市街・下流域)

金目観音(光明寺)をはじめ豊かな歴史文化資源を有する平塚市金目地区から鈴川と渋田川が金目川本流と合流し、花水川と呼ばれ相模湾に注ぐ河口付近までの地域

6. 農業エリア(農地ほか)

金目川水系の流域は広大な水田地帯を形成しており、県内の水田面積では平塚市が最も広く、秦野市と伊勢原市を合わせた水系の3市で県全体(3,092ha)の30%を占めています。他の5つのエリアを除く流域をこうした豊富な農地で形成された地域として一括りにまとめるものとします。

【スポット分類凡例】

○ 各エリアの特徴ある地域資源を考慮して7つのスポットを設定のうえ、ふさわしいと考えられるものをそれぞれのエリアに提示しています。

- ①きれいな水スポット ②水生生物観察スポット ③野鳥観察スポット ④ジョギングと散策スポット
⑤花のスポット ⑥農産物収穫体験スポット ⑦歴史探訪スポット

1. 水源流域エリア [主な河川：金目川・葛葉川・水無川・鈴川の源流域]

(1) 川辺の自然を守ろう

(6) 歴史と文化を知ろう

<理想像>

- 金目川の水源域として重要なエリアです。水源涵養林として豊かな森を保全するために、森林の整備や扇状地末端の湧水調査が行われています。また、上粕屋地区、名古屋地区の水田維持再生や、山際地域の宅地開発抑制により上流河川の水量が確保されています。
- 溪流に生息する魚や水生生物、野鳥、河畔の植物などの豊かな自然を守りながら、多くの人が源流域の自然に触れて水の大切さを知り、自然の学びが活かされています。
- 観光地大山の歴史的遺産の発掘と共に、鈴川上流部（子易）の山間集落の地元遺産が見直され、地域の誇りとして継承されていきます。
- 都市部と山間部で有機的交流を行い、農業体験等を通して地域の活性化が図られています。

<主なスポットと地域資源>

- ① きれいな水スポット（春嶽山、竜神の泉、くずはの泉、大山八段滝など）
- ② 水生生物観察スポット（秦野市蓑毛、秦野市菩提、水無川上流など）
- ③ 野鳥観察スポット（秦野市表丹沢野外活動センターなど）
- ④ ジョギングと散策スポット（春嶽山登山コースなど）
- ⑤ 花のスポット（大山桜など）
- ⑦ 歴史探訪スポット（大山の歴史文化資源）



秦野市蓑毛（金目川上流部）

<拠点的な施設等>

- 秦野市表丹沢野外活動センター、大山公民館（伊勢原市）
- 秦野ビジターセンター（県立秦野戸川公園）

<理想像の実現に向けた活動例>

- 放置された谷戸田を開墾し、水生生物の生息環境を再生する。
- 魚、水生昆虫、植物、鳥、小動物等の観察に適した場所を探索し、定点観測を行うことにより市民の目により生物の多様性をモニタリングする。（金目川水系の流域全般共通提案）

<主な既存の活動内容>

- 県内高校生を対象とした秦野市蓑毛での自然環境と生物への人間生活の影響を考える体験研修（東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程）
- 金目川水系流域ネットワークによる春嶽山水源涵養保安林の現況視察
- 金目川水害予防組合（平塚市・秦野市・伊勢原市で構成する一部事務組合）による春嶽山(137ha)の水源林管理（作業は秦野市森林組合に委託）
- 秦野市立渋沢小学校のビオトープ（室川の支流にあたる「生き物の里」：秦野市指定）
- 四十八瀬自然村の魚類調査活動

2. 市街化エリア（秦野市街地周辺）〔 主な河川：水無川・室川・葛葉川及び金目川中流 〕

(2) 川と親しもう

(4) 川を日々の生活と身近なものにしよう

(7) 湧水域を大切にしよう

<理想像>

- 身近な自然として川を感じ、人々が川や水辺の生き物と容易にふれあうことができる地域であり、川とともに川沿いに残された緑地を保全し、多様な川の生き物が生息できる環境が維持されています。
- 秦野市街地は豊かな湧水群をより身近な存在にするために、水を汚さない習慣が広く根付いています。こうした湧水の小川の保全とともに、ホタルなどの貴重な生き物が生息する支流にも配慮し、自然のままの植生や生きものが復活、再生しています。
- 全面コンクリート張り護岸整備を一部廃止、県産間伐材等を用いた多自然川づくりが拡大され、自然発生を促す植生により生物多様性に配慮されている地域となっています。
- 河川が多面的に活用され、「美化を目的とした植栽箇所」、「多様な生物の生息箇所」、「水辺に親しむ箇所」が整備され、子どもたちが安全に生き物の観察など、気軽に川遊びをすることができます。

<主なスポットと地域資源>

- ① きれいな水スポット
(弘法の清水、今泉名水桜公園、若竹の泉など全国名水百選「秦野盆地湧水群」など)
- ② 水生生物観察スポット
(秦野市蓑毛、くずはの広場：葛葉緑地(ナショナルトラスト保存緑地)、いまいずみほたる公園など)
- ④ ジョギングと散策スポット
(くずはの広場、みずなし川緑地、秦野中央運動公園、秦野盆地湧水群周辺、田原ふるさと公園など)
- ⑤ 花のスポット (桜土手古墳公園、みずなし川緑地、今泉名水桜公園など)

<拠点的な施設等>

- くずはの家（くずはの広場）、田原ふるさと公園、秦野市市民活動サポートセンター

<理想像の実現に向けた活動例>

- 魚、水生昆虫、植物、鳥、小動物等の観察に適した場所を探索し、定点観測を行うことにより市民の目により生物の多様性をモニタリングする。（金目川水系の流域全般共通提案）

<主な既存の活動内容>

- 公園里親制度（アダプト・プログラム）として市民・企業等が主体となり美化活動を実施する水無川・秦野市公園等美化ボランティア推進事業（小巻環境サービス花の会・理容組合花花同好会・光伸光学花と緑を守る会・秦野丹沢ライオンズクラブでは、みずなし川緑地の国道246号秦野大橋上流の花壇（左岸）で美化活動を実施）



- くずはの家の水辺観察会
- 今泉名水桜公園の生き物観察など（秦野市立南小学校）
- エコスクール活動における小学校による川の観察会（秦野市環境保全課）

3. 市街化エリア（大根・鶴巻地区）〔 主な河川：大根川・善波川・鈴川 〕

(2) 川と親しもう

(4) 川を日々の生活と身近なものにしよう

(5) 川と農業（産業）との関わりを学ぼう

<理想像>

- 水田、河川、山並みの風景が作り出す懐かしい景観がある地域です。鶴巻温泉への来客や地域住民が、あじさい散歩道からおおね公園まで田園風景を眺めながら、花や野鳥、ホタルを観察し、散策できる遊歩道が整備されています。また、子どもたちが安心して遊べる川や、農業体験ができる田んぼがあり、シギやチドリ、サギ、カモ類の飛来地としても貴重な水辺環境が維持されています。
- 大根川、善波川、鈴川が流れる大根・鶴巻地区は、住宅の開発が急激に進み水質の悪化がみられる地域ですが、公共下水道の整備に伴う水質の改善とごみ等の不法投棄をなくすなどの美化活動により、善波川で魚の群れが復活するなど、自然環境の再生が図られています。

<主なスポットと地域資源>

- ② 水生生物観察スポット（善波川、大根川周辺、鶴巻舞台の水田地帯など）
- ③ 野鳥観察スポット（青鷺や白鷺が舞う大根・鶴巻地区の田んぼ）
- ④ ジョギングと散策スポット（善波川・鶴巻あじさい散歩道、大根川・鶴巻親水遊歩道、おおね公園）
- ⑤ 花のスポット
（善波川・鶴巻あじさい散歩道、大根川・鶴巻親水遊歩道周辺のあじさいや田んぼに咲く蓮華など）
- ⑦ 歴史探訪スポット（大ケヤキと延命地蔵、弘法の里湯と温泉郷、根丸島遺跡）

<拠点的な施設等>

- おおね公園
- 鶴巻田園環境を育む会の指定する田んぼ（20ha）、鶴巻ホタルの会の田んぼ（1反3畝）

<理想像の実現に向けた活動例>

- 秦野市鶴巻地区の浸水被害を抜本的に解消するための大根川ポンプ場建設に伴い、その一部を周辺の景観や田園環境と一体感を持たせた地域住民が楽しめる緑地として整備するとともに、旧関連施設の跡地利用も視野に入れた、鶴巻あじさい散歩道と鶴巻親水遊歩道の連結による「おおね公園」に至る遊歩道の実現に向けた関係行政機関と連携した検討。（遊歩道等において野鳥観察のできる環境づくりにも配慮して、その可能性を探ります。）
- 蓮華畑とホタルの舞う田んぼの環境整備と実現
- 農産物収穫体験スポットとして鶴巻田園環境を育む会の指定する田んぼなどの活用
- 魚、水生昆虫、植物、鳥、小動物等の観察に適した場所を探索し、定点観測を行うことにより市民の目により生物の多様性をモニタリングする。（金目川水系の流域全般共通提案）

<主な既存の活動内容>

- 鶴巻あじさい散歩道美化の会による矢茂井橋（右岸）を中心としたあじさいの植栽・管理活動（善波川・鶴巻あじさい散歩道）
- 鶴巻親水遊歩道の会による酔芙蓉とあじさいの育成と管理
- 鶴巻ホタルの会によるホタル幼虫の飼育と田んぼの管理



4. 市街化エリア（伊勢原市街）〔主な河川：渋田川・板戸川・鈴川・歌川〕

(2) 川と親しもう

(4) 川を日々の生活と身近なものにしよう

(7) 湧水域を大切にしよう

<理想像>

- 金目川水系の渋田川源流、鈴川、板戸川が流れる伊勢原市街周辺の上流域に広がる農業地をはじめとする豊かな自然は、川を維持するために大切な資源であり、農業者との連携により不耕作地などを活用し、自然を生かした市民活動が活性化されています。
- 渋田川周辺では、あやめの里、芝桜など「花の美」を活かした景観の良好な環境を保持し、散策などにふさわしい回遊性のある、川に親しみを抱かれる地域となっています。
- 歌川周辺では、大規模宅地開発に伴う調整池は動植物の生息空間として確保されているとともに、板戸川周辺では、住民の憩いの場となっている毘沙門池が復元され、文化的、生物学的価値が高まり憩いと学習体験の場が確保されています。
- また、住民参画による美化清掃活動が活発化し、生物の多様性が確保されるとともに元気に川で遊ぶ子どもたちが増え、生活と川が身近なものになっています。

<主なスポットと地域資源>

- ② 水生生物観察スポット（板戸川周辺、鈴川周辺、農業用水路（ホトケドジョウ）など）
- ④ ジョギングと散策スポット
（渋田川の芝桜周辺、渋田川・歌川リバーサイドコース（水辺の遊歩道）など）
- ⑤ 花のスポット（渋田川の芝桜、あやめの里、歌川沿いの蓮華など）



<拠点的な施設等>

- いせはら市民活動サポートセンター、子ども科学館、比々多小学校、比々多公民館、大田ふれあいセンター、大田公民館

<理想像の実現に向けた活動例>

- 湧水池周辺の鎮守の森を住みかとする生物種を有効活用した環境学習とその情報発信（奇跡的に残った水源・毘沙門池の湧水、水路図の完成を目指し、40年前まで活用していた湧水を、旧地元住民、市街化後に居住した住民にとっての貴重な板戸地区の誇りとして実感できる「水と共生した板戸再発見」につなげる契機づくり）〔毘沙門池再生プロジェクト（地域資源：毘沙門池と水辺文化、灌漑用水など）〕
- 魚、水生昆虫、植物、鳥、小動物等の観察に適した場所を探索し、定点観測を行うことにより市民の目により生物の多様性をモニタリングする。（金目川水系の流域全般共通提案）

<主な既存の活動内容>

- よみがえれ板戸川市民の会による毘沙門池を源流とする板戸川の自然環境の再生に向けた環境調査や清掃活動等



5. 市街化エリア（平塚市街・下流域）〔主な河川：金目川・渋田川・鈴川・河内川〕

(2) 川と親しもう

(4) 川を日々の生活と身近なものにしよう

(6) 歴史と文化を知ろう

<理想像>

- 平塚市金目地区の金目観音をはじめとした豊かな歴史文化資源を通して地域をよく知り、現状の自然を大切にしながら川に親しむことができる回遊性のある憩いの地域となっています。
- 川に親しみ子どもが安心して水遊びできる川（金目川、渋田川、河内川など）として、安全性を確保しながら地域自らがそこに生息する生き物の観察を通して良好な環境が維持されています。
- この地域は、アユ・ヒラテテナガエビ・ウナギ等にとって生息環境が適している地点であり、水の持っている力を理解して川を良好な環境に保ちながら、親子で川に親しむことができるふるさとの川として、次世代に継承されていきます。
- 渋田川桜まつりや河内川あじさいまつりに象徴される季節毎の花の美を活かした地域づくりを継続的に実践し、広く愛され親しまれる水辺空間が創出されています。
- 金目川河口付近の下流域は、海と川の強いつながりを肌で感じるベストフィールドであり、野鳥や水生生物などの観察スポットとして良好な環境が保持されています。

<主なスポットと地域資源>

- ② 水生生物観察スポット（金目小学校前河川敷、河内川蔵之前橋～新幹線上流親水施設、土屋橋付近）
- ③ 野鳥観察スポット（立堀親水公園（鈴川）、上平塚～花水橋付近（金目川）、金目川下流階河川敷）
- ④ ジョギングと散策スポット（金目親水公園、金目川サイクリングコース、富士景観スポットなど）
- ⑤ 花のスポット
（金目観音付近、高麗大橋付近の桜（金目川）、鷹匠橋付近の桜（渋田川）、蔵之前橋付近のあじさい（河内川）、金目川サイクリングコースの桜）
- ⑦ 歴史探訪スポット
（金目観音（光明寺）、塚越古墳、御所様堤、不動院など平塚市金目地区を中心とした歴史文化資源）

<拠点的な施設等>

- ひらつか市民活動センター、南原公民館、金目公民館
- 県環境科学センター、県立花と緑のふれあいセンター

<理想像の実現に向けた活動例>

- 魚、水生昆虫、植物、鳥、小動物等の観察に適した場所を探索し、定点観測を行うことにより市民の目により生物の多様性をモニタリングする。（金目川水系の流域全般共通提案）

<主な既存の活動内容>

○金目川夏休み生き物観察会
（金目川水系流域ネットワーク・東海大学等の活動）



○河内川あじさいまつり
（河内川あじさいの会の活動）



○渋田川桜まつり
（21 渋田川ロード推進協議会等の活動）
～地域の学校生徒による演奏風景～



平塚市立金目小学校前の河川敷では、市民団体や東海大学等による生き物観察会が平成 18 年度から開催され、河内川や渋田川では、市民団体自らの除草・美化清掃や桜やあじさいの植栽・手入れによる河川環境の向上が図られ、4月の渋田川桜まつりや6月の河内川あじさいまつりが定着してきています。

6. 農業エリア（農地ほか） [主な河川：金目川・水無川・葛葉川・座禅川・鈴川・善波川・渋田川]

(5) 川と農業（産業）との関わりを学ぼう

<理想像>

- 善波川周辺では、神代杉や、矢倉沢往環など昔ながらの古道については、川を通して地域を学ぶ資源としてその保存と活用が図られています。
- 平塚市を中心とする金目中流域は、県内有数の稲作地（穀倉地帯）であり、生活の川として発揮されている金目川の力や、水田の持つ自然環境を維持する力を学ぶことを通して、農業者と住民との共存が図られています。
- 収穫体験の機会の創出や河内川上流部における河内川の水量維持のための農業用水の活用などを通して、住民と農業者との交流を図り、お互いの理解を深め、川の恵みと農業など地域の産業との関わりを学ぶ地域となっています。
- 山間部や平野部に広がる集落エリアの農業地帯の水田、畑地の環境的価値、循環型社会の復元可能な地域的価値を高めながら、地域住民とともに広く市民参加が可能になるしくみが確立され、遊休農地が復元されています。

<主なスポットと地域資源>

- ② 水生生物観察スポット（金目親水公園周辺、平塚市岡崎、寺田縄の水田地帯など）
- ③ 野鳥観察スポット（秦野市蓑毛自然観察の森など）
- ④ ジョギングと散策スポット（花と緑のふれあいセンター周辺の富士景観スポットなど）
- ⑥ 農産物収穫体験スポット（平塚市寺田縄の田園、花と緑のふれあいセンター）
- ⑦ 歴史探訪スポット（矢倉沢往環道、勝興寺、善波川の神代杉、比々多神社など）

<拠点的な施設等>

- 県立花と緑のふれあいセンター

<理想像の実現に向けた活動例>

- 金目川水系河川から取水し営まれている水田地帯等において、川辺の保全活用に取り組む方々や生き物観察をする子どもたちが、川の恩恵を受けた生業を学ぶ機会を創出し、相互の理解と親交を深める。
- 河内川上流部では取水堰周辺の美化清掃について、取水組合（農業関係者）とあじさい植栽活動をしている中下流部の方々が共に取り組む試みを考えてみる。
- 魚、水生昆虫、植物、鳥、小動物等の観察に適した場所を探索し、定点観測を行うことにより市民の目により生物の多様性をモニタリングする。（金目川水系の流域全般共通提案）

<主な既存の活動内容>

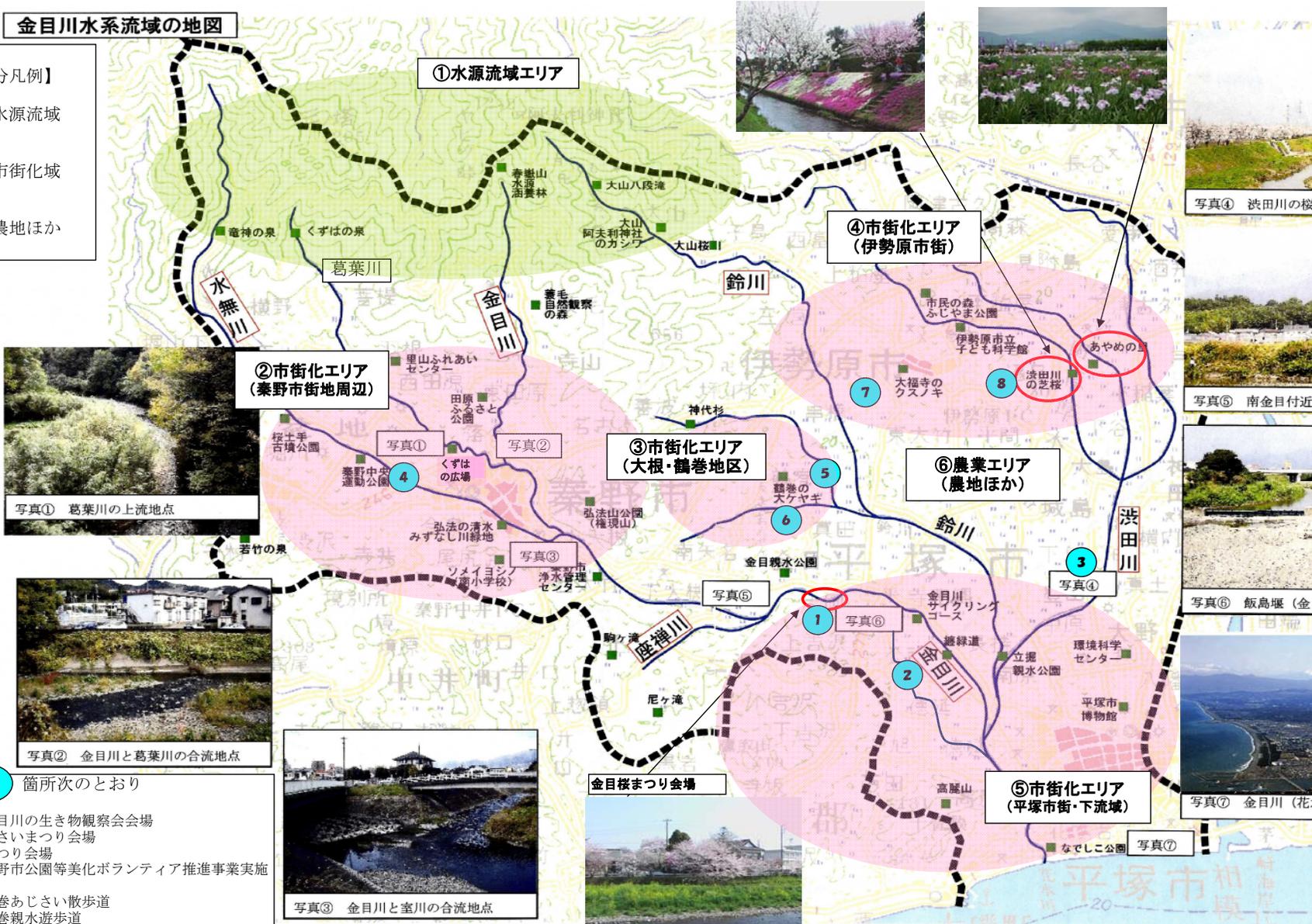
- 湘南農業経営士会の農業者による農業体験の取組み
平塚市長持地区の周辺で田植え・稲刈り体験や農業関連施設の見学をとおして、主に参加者の親子に農業を理解していただき、食料の大切さ、安全性を学んでいただく機会を設けています。



金目川水系流域全体図と既存スポット例（ビジョンにおけるエリア区分）

金目川水系流域の地図

- 【エリア区分凡例】
- 水源流域
 - 市街化域
 - その他 農地ほか



- (注) 番号 箇所次のとおり
- ①夏休み 金目川の生き物観察会会場
 - ②河内川あじさいまつり会場
 - ③洪田川桜まつり会場
 - ④水無川・秦野市公園等美化ボランティア推進事業実施箇所
 - ⑤善波川・鶴巻あじさい散歩道
 - ⑥大根川・鶴巻親水遊歩道
 - ⑦よみがえれ板戸川市民の会の活動箇所
 - ⑧ピオトープぬまめの活動箇所

＜参考資料＞

「湘南里川づくり」の推進に向けた共同宣言

金目川水系は、丹沢大山山塊の南麓を源流とし、上流部は水源として利用され、里地里山を経て、中下流部では豊かな水田地帯を潤しながら相模湾に注ぎ込む、暮らしに密着した「ふるさとの川」として親しまれています。

神奈川県と金目川水系の流域3市（平塚市、秦野市、伊勢原市）は、この流域を、自然と調和、共存していくための地域の貴重な財産としてとらえ、次のとおり具体的な展開に向けて相互に連携協力していくことを宣言します。

- 1 次世代を担う子どもたちに引き継いでいくために、金目川水系の流域に関わる共通の課題や全体像を共有し、流域の豊かな自然や地域文化の再生を目指します。
- 2 より多くの人々が金目川水系の流域に関わっていくことができるような新たな仕組みを整え、市民・企業・行政等がともに連携、協働して、みんなに愛され親しまれる里川づくりを進めます。
- 3 湘南里川づくりを推進するための体制づくりや、活動を促進するための様々な方策を流域住民とともに具体的に検討します。

平成20年7月28日

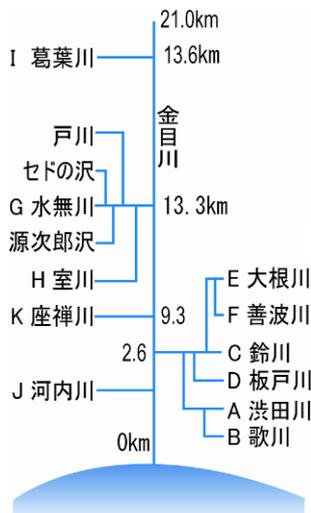
平塚市長 大藏 律子

秦野市長 古谷 美幸

伊勢原市長 長塚 幾子

神奈川県湘南地域県政総合センター所長 島津 直美

【金目川水系の流域マップ】



※数字はお河口からの距離（km）。左図のアルファベットは右図に対応。平塚市博物館「相模川事典」1994より